



2025(令和7年)年を迎えました。今年もよろしくお願いたします。

皆さん、元気で新しい年を迎えられたでしょうか。冬休みは年末年始が重なり、慌ただしかったのではないのでしょうか。そのようななか、2024年を振り返り、2025年に向けて新たな希望、目標、決意を定めた人もいることでしょう。

今日から3学期が始まります。3つある学期のなかでは一番短い日数の3学期。次の学年への進級を見据える。中学校への進学を見据える。自分の進路を見据える等、次のステージへ大きくステップするための準備をする大切な3学期です。まずは、健康第一です。そして、落ち着いて生活することです。公共のマナーを思い返してみましょう。

今年も、インフルエンザをはじめとする感染症が流行する冬のようなようです。予防のための対策をして、元気で3学期を過ごしたいものです。また、北日本や日本海側の積雪量が例年になく多いようですね。本校でも雪が積もったときに備えておかねばと思っています。

冬休み中、私は以前に勤めていた学校で受け持った子と出会いました。その子らが大人になって、それぞれの場所でせいっぱいがんばっていることを知れてうれしかったです。12月30日、2歳と0歳の双子がいるお宅に招待されました。部屋の中で予測できない動きをする3人の幼児、赤ちゃん。私を含めて5人いる大人のなかで、気付いた者が子どもと遊ぶ。子どもをあやす。子どもを寝かしつける等の手を差し伸べました。私もそのなかの一員となり、赤ちゃんをおそろおそろ抱っこして寝かしつけるじいさん役をさせていただきました。子育ては大変です。自分も含めて、みんなこうやって大きくなっていったのだなど、僕の腕の中でなかなかごんた(泣き止まない様子)がおさまらない赤ちゃんをあやししながら、しみじみと思いました。

2025年はへび年 へび年のいわれとは

さて、今年の干支は、へび(巳)です。へびは、田畑の害獣を駆除してくれるため、日本では古くから農業の守り神とされ、「へびがいると豊作」とも言われてきたようです。そうはいつても、私はへびが苦手です。子ども時代、里山を遊び場としていた私は、里山にいる危険でない生き物のほとんどを触って遊んでいましたが、へびだけはどうしても触れませんでした。へびのなんともいえない動きとうろこ柄の容姿がどうしても受け入れられなかったのです。今でもそうです。

一方で、主に沖縄県で用いられている楽器である三線(さんしん)は、へび(ニシキヘビ)のうろこ柄をした皮を活用して作られています。また、へびの皮の丈夫さや、へびにまつわる言い伝えを活用して財布も作られています。他にも、へびを活用したものはあるでしょうか。

へびは、「新しい自分に生まれ変わる」「幸せな未来をつかむ」という、なんともステキな意味を持っているのだそうです。へびが脱皮して、そのたびに大きく成長していく様子から、新しい自分に出会える年、新たな自分に生まれ変わる年になるのだそうです。再スタートや変わるチャンスに恵まれる年ともいえるでしょう。

2学期の終業式で、私は全校に、「変わることは、成長すること」と話をしました。これらのへびのいわれを手がかりにして、新しい自分探しをする。様々な場面でチャレンジを通して、自分の成長へとつなげる。こうした活動をするのにぴったりなのが、今年のへび年のようです。

へびのようにしなやかに変わることを受け入れ、あなたの知恵、みんなの知恵を生かして目標を定めて成長する一年にしてみたいでしょうか。

学習をはじめとした、学校における様々な活動もこれらのことをしっかりと意識し、吉野さくら学園が成長するよう、教職員一丸となって取り組んでいきたいと思っています。

最後に、吉野に関わる話をします。少し難しいかもしれませんが、でも、勉強になります。

今年は、干支(かんし)と十二支(じゅうにし)でいうと「乙巳(きのとみ)」です。(いっし)とも読みます。今年は、「乙巳の変(いっしのへん)」が起こってから1380年が経ちます。

「乙巳の変」は、教科書に出てきます。「大化の改新」といえば分かる人も出てくるでしょうか。現在は、「乙巳の変」のあと「大化の改新」が行われたと区別されています。

この出来事は、吉野町のすぐ北にある明日香村で、645年に起こりました。政治の駆け引きである「乙巳の変」のあと、新しい政権ができ、政治制度改革が行われました。ここで中心となった中大兄皇子(のちの天智天皇)の弟である大海人皇子(のちの天武天皇)は、ここ吉野に来ています。いろいろな伝承が残されていますよ。「よきひとの よしとよくみて よしといひし よしの(吉野)よくみよ よきひとよくみ」との歌を吉野で詠んでいます。他にもあるのか、探してみたいでしょうか。